Augumented Augumented

ER17076 安井 理

目的

•SSD-6Dの論文を実装するのが難しい

・もう一つのRGB画像からの方向推定の論文を読んでみる

とりあえず一週間しかないので調べてみる

概要

- •ECVV2018のBest paperに選ばれた6次元物体検出の論文 Implicit 3D Orientation Learning for 6D Object Detection from RGB Images
- ■物体検出と6次元ポーズ推定のためのRGBベースの手法を提案
- •特に方向推定の部分に長けている
- •CADモデル(3Dモデル)だけで6DoF物体検出の学習ができる
- Domain Randomizationを活用したDenoising Autoencoderを学習

推定の流れ

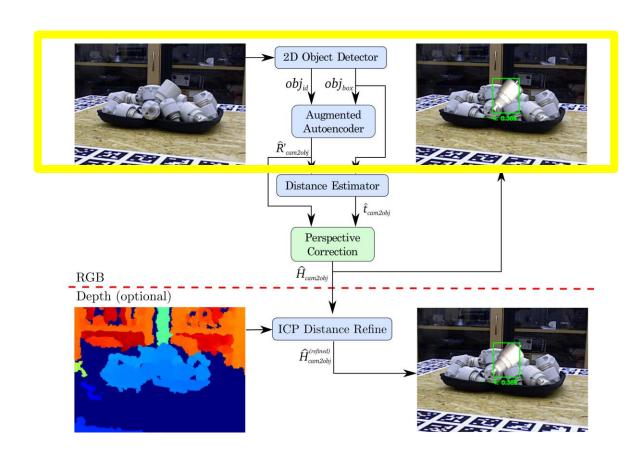
RGB画像をSSDなどの既存の物体検出手法に入力 →(x,y)情報を持ったバウンディングボックスを検出

検出された画像をAugumented(拡張) Autencoderに入力3次元方向推定

アウトプット情報を使い奥行きzを計算することで6次元の推定が行える

ここで言われる6次元は(x,y,z)座標に加えて(x,y,z)の回転方向の推定

推定の流れ



- ・赤色の切り取り線の上までがRGBデータ のみでのプロセス
- ・深度センサーがあればより精度が上がる
- *Augumented Autencoderは3Dモデルを 用いて学習

Domain Randomization

- ・3Dデータで学習し、現実の物を推定するための手法
- ・3Dモデルに様々な環境のパラメータを追加して学習
- •物体と背景の対称性を明確化
- テスト時に現実物でも推定可能になる



Fig. 1. Illustration of our approach. An object detector is trained on hundreds of thousands of low-fidelity rendered images with random camera positions, lighting conditions, object positions, and non-realistic textures. At test time, the same detector is used in the real world with no additional training.

- Autencoder
 - 教師なし学習・データを表現する特徴を獲得するネットワーク
- Denoise Autencoder
 - ノイズありの画像を入力.ノイズなしの画像を出力するように学習 ノイズによらない本質的な潜在表現を得る
- Augumented Autencoder
 - ノイズ以外の画像加工を加え学習する
- Denoise Autencoderの応用

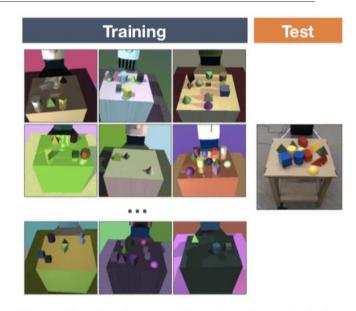


Fig. 1. Illustration of our approach. An object detector is trained on hundreds of thousands of low-fidelity rendered images with random camera positions, lighting conditions, object positions, and non-realistic textures. At test time, the same detector is used in the real world with no additional training.

Augumented Autencoderを示す数式

$$x'' = (\psi * \Phi * f_{augm})_{(\chi)} = (\psi * \Phi)(\chi') = \psi(\chi')$$

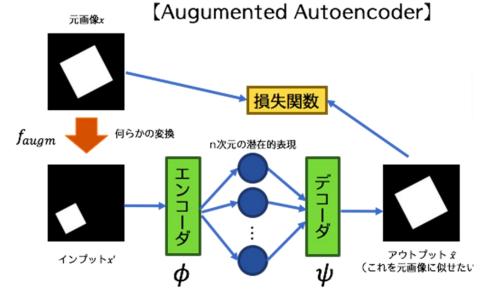
・損失関数62ノルム(差を最小にして本物に近づける)

$$\ell 2 = \sum_{\ell \in \mathcal{D}} ||x(i) - x''(i)||_2$$

 \mathbf{x} :入力(インプット) f_{augm} :変換(加工)の関数

x':インプット画像を変換(加工)したもの

 ψ : デコーダー



通常AutencoderとAugumented Autencoderの比較

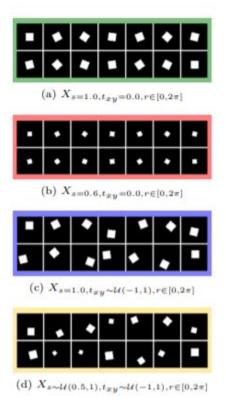
緑枠の(a)をベース画像として

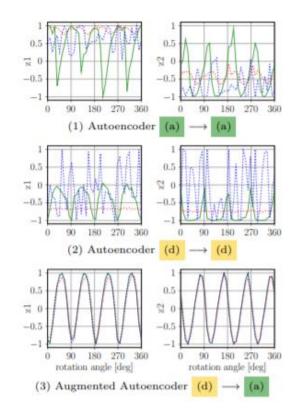
1:(a)→(a) 2:(d)→(d) 3:(d)→(a) の入出力で学習

結果として

通常のAutencoder1・2は応用があまり利かない

Augumented Autencoderは四角形の潜在表現を反映できる

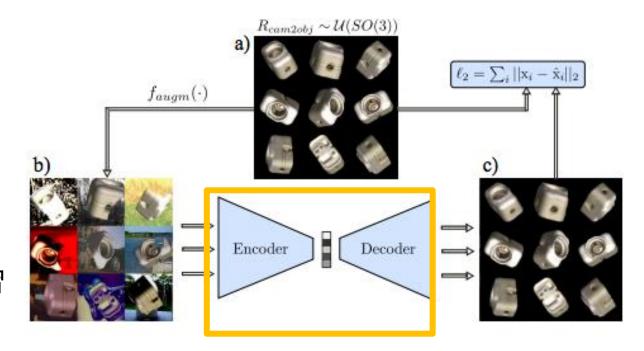




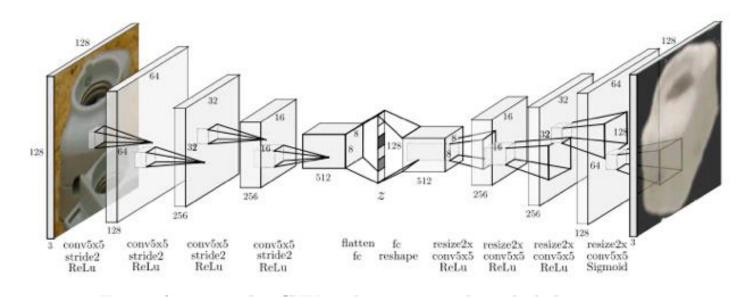
3Dモデルデータに対して学習するとき

- a)学習したいもの
- b)背景・光・遮蔽物などを追加
- c)潜在表現の出力

損失関数[(a)と(b)の差]を最小になるように学習

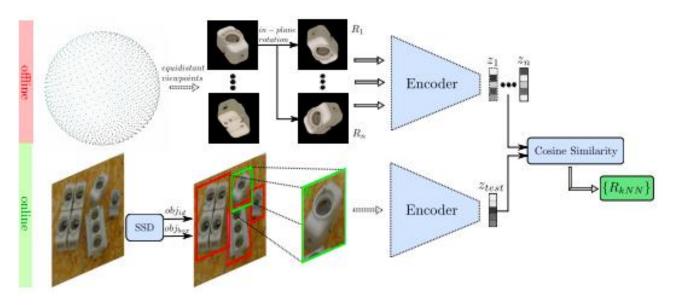


構造は128×128の画像を5×5の畳み込みを4回 conv5×5 strid2 ReLu 全結合層を1回行って潜在表現を得る



検出

- *Augumented Autencoderを使い3Dモデルの色々な角度の潜在表現を計算
- ・テスト画像が入力されSSDを通したらAugumented Autencoderに通し潜在表現を計算
- ・計算済みの潜在表現に類似したものを cosin距離に基づいて探し出力



. 今後

・検出部の座標、深度の求め方について調べる

*実際に動かしてみる

参考文献

6次元物体検出の論文

http://openaccess.thecvf.com/content_ECCV_2018/papers/Martin_Sundermeyer_Implicit_3D_Orientation_ECCV_2018_paper.pdf

• 論文読み: https://qiita.com/ttyszk/items/c58250e1bbf9983d0cf3

- 論文要約: http://toaruharunohi.hatenablog.com/entry/2018/09/14/120238